



甲南第一小学校だより

第一っ子



令和5年10月2日

(2023年度)

第6号

甲南第一小学校

自分を「客観的に見つめる力」を身に付ける

「夏の暑さもお彼岸まで」とよく言われているように、厳しい残暑も収まり、朝夕涼しくなってきました。そして、秋の気配を感じる爽やかな10月を迎えました。また、10月は「神無月(かんなづき)」と呼ばれ、神様のおられない月とされていますが、一方では、昔の人が「無」を「の」と読んだことから「神の月(かみのつき)」と言われているように、神様に「感謝」する月の始まりでもあります。今月もいろいろなことに「感謝」する気持ちを忘れず健康に過ごしたいものです。

さて、話は変わりますが、学習指導要領に記されている大切にすべき資質・能力の3つの柱の中に、「学びに向かう力、人間性等」があります。具体的には、主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力、自分の感情や行動をコントロールする力、よりよい生活や人間関係をつくる態度のことを意味し、これは、自分のことを「客観的に見つめる力」と言い換えることもできます。

そして、この力は、就学前から芽生え、小学校の高学年から急速に伸び始めると言われています。小学5、6年生頃になると、いろいろな物事やいろいろな人の思いへの気づきから、自分の行動を見直すことができるようになったり、学習においても、理解できない理由や質問の意図を考えられるようになったりするの、この力が伸び始めるからです。

また、この力には、自分の今の状況に気づくことで自分の感情をコントロールできたり、つまづきの把握や解決策の模索等の問題解決能力が高まったり、同じ間違いを繰り返さないように物事を見つめることで状況に応じた柔軟な対応ができるようになったりする等のメリットがあります。

以上のことから、自分のことを「客観的に見つめる力」は、子どもたちがこれから生きていく上で大切な力であることがお分かりいただけると思います。そんな大切な力を身に付けていくためには、物事に取り組む目的と取り組み方を意識すること、その時の自分の感情の原因に気づくこと、自分の立場からだけでなく相手の立場から物事を考えることで大切だと言われています。

甲南第一小学校では、結果も大切にしていますが、相手意識と目的意識をしっかり持ち、取組の結果に至るまでの過程とそのまとめや振り返りを大切に教育を進め、子どもたちが、自分のことを「客観的に見つめる力」を身に付け、高めていくことにも力を注いでいます。



失敗や間違いをしない子どもなどいません。子どもは失敗や間違いの過程から自分に必要なことを学び自己修正しながら育っていくものです。良いこともそうでないことも、自分のことを客観的に見つめられることは欠かすことのできない大切な力であり、健全な成長には必要な力です。

私たち大人も、思い込みや感情にとらわれることなく、目の前の子どもたちを客観的に見つめ、適切な指導や支援しながら、子どもたちの健全な成長をサポートしていくことが大切だと思います。

甲南第一小学校 校長 松山 辰也

ありがとうございました!

朽ち果てそうになっていた百葉箱の屋根を修理していただきました。これで、理科の「気温の変化」の学習をより正確な記録に基づいて進めていくことができます。夏休みに、前PTA副会長の橋本圭一さんに、きれいにしていただき



きました。お忙しい中、時間を割いて丁寧に修理していただきました。本当にありがとうございました。

自分の命は自分で守る!

9月8日の2、3時間目に「防災教室」を実施しました。自治振興会や防災士連絡会、女性消防隊の皆さんが中心となって、地震や津波への備え、災害が発生した時の行動の仕方等について、楽しくわかりやすく教えていただきました。防災において重要なことは、災害がいつ起きても対応できるように普段から自分の身近な危険について理解し、そのための準備やをしっかりとしておくこと。そして、何よりも「自分の命は自分で守る!」という気持ちが大切であることを学ぶことができました。

「防災教室」

ひとみ輝く第一っ子 よく学び・心豊かに・健やかに